

学校目標・経営方針	自己実現を目指すために、学ぶ意欲、問題解決能力、個性豊かな人間性を養う
-----------	-------------------------------------

山梨県立北杜高等学校校長 河手 由美香

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びを目指す。</li> <li>・問題解決能力及び共生・共感を培う人間関係づくりを推進する。</li> <li>・家庭・地域・関係機関への教育活動の周知及び連携の推進を図る。</li> <li>・規範意識の向上を図り、個性豊かな人間性の育成に努める。</li> <li>・「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る。</li> </ul>
----------	--

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価			学校関係者評価			
本年度の重点目標			年度末評価(令和5年3月1日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体的・対話的で深い学びに向けた指導の充実	①やまなしスタンダードを活用し、授業の理解度70%以上を達成できる授業づくりの工夫改善に努める。 ②シラバス、学習の手引き、クラスターを活用し、基礎学力及び家庭学習の定着に努める。 ③ICTを活用し、授業準備の効率化や負担軽減に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①「私は、授業の内容の70%以上は理解している」と回答した生徒は77%であった。また、89%の生徒と85%の保護者から「学校は授業をわかりやすくし、学力向上するための工夫をしている」との回答を得た。 ②平日の家庭学習時間は1時間未満が最も多く、46%であった。休日においては、1～2時間が最も多かった。一方、93%の生徒が、「学校は、授業外の学習により知識や技能を活用する場を用意している」と回答している。また、88%の生徒が「学校は生徒の学習・活動に対して意欲・関心を引き出すように働きかけている」と回答している。これらの働きかけにより、「私の家庭学習時間は昨年よりも増えた」と答えた生徒が53%と過半数に上った。 ③ICT活用研修「ICTサロン」を年間30回開催し、教員のスキル向上を図り、授業準備の効率化の一助とすることができた。	B	①一人一人の可能性を引き出すICTを日常的に活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した主体的・対話的で深い学びの授業改善を、学校の課題として会議等で明確に位置づけ、教科主導でやまなしスタンダードの活用の在り方、指導方法の工夫、観点別評価の確実な実施を図る必要がある。特に新課程におけるBYOD導入に伴う授業改善は早急に取り組む。 ②・③将来への見通しをもった生活を基盤として、家庭での自立した学習習慣の確立を目指し、保護者等と双方向的な情報共有(ICT活用含む)を促進する必要がある。
2	問題解決能力及び共生・共感を培う人間関係づくりの育成	①様々な体験活動や部活動等への積極的な取り組みを通して、コミュニケーション能力を高める。 ②自己を正しく理解させ、在り方や生き方について考えさせる取り組みを実践し、自己有用感や充実感を育む。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①・②積極的に活動していると回答した生徒は94%であった。また、93%の生徒と84%の保護者が「学校は部活動が活発であり適切に指導している」と回答。さらに、93%の保護者が「学校は、学校行事における生徒同士の協働を通して、社会性を育てようとしている」と回答した。これらの取り組みを通して、人間関係を良好にできたり、北杜高校生としての自覚をもってると答えた生徒が95%を超えている。	B	①部活動・委員会等の取り組みは、高い評価が得られている。次年度は、コミュニケーション能力をさらに高めることを目指し、自主的なボランティアや地域連携活動等、生徒の主体性を引き出す運営と指導に努めていく。 ②自己理解や、生き方について考えさせることに特化した「教育相談便り(R4年度より発行)」やソーシャルスキルを学ぶためのツールが適時適切に活用された。次年度は、HRの在り方・運用の仕方・内容の具体化を図り、体系的に取り組む必要がある。
3	規範意識の向上を図り、個性豊かな人間性の育成	①基本的な生活習慣の確立及び集団生活のルールやマナーを身につけさせる。 ②生徒の主体的な活動を推進し、自主自立の精神と道徳性の向上に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①・②ほぼ100%の生徒が校則や社会のルールを守っていると回答している。また、「基本的な生活習慣」については、95%の生徒と88%の保護者が「生徒に身につけさせている」と回答している。「ルールやマナー」については、学校が適切に指導していると答えた生徒は92%で保護者は88%であった。	B	①基本的な生活習慣の確立及び集団生活のルールやマナーについては、改訂された生徒指導提要に基づき、個別具体的に対応して行く必要がある。 ②保護者等と緊密に連携し、生徒への啓発的な情報発信及び講演会等行事を充実し、個性豊かな人間性の育成に努めていく必要がある。
4	家庭・地域・関係機関への教育活動の周知及び連携の推進	①学校ホームページや便りによる情報発信を工夫し、ホームページ等の充実を図る。 ②地域の企業や関係機関との交流を深め、地域に開かれた学校づくりに取り組む。 ③授業等において効果的な外部人材の活用に取り組み、業務の役割分担・適正化に努める。	生徒・保護者・職員・学校評議員による評価アンケート、生活実態アンケートなど	①生徒の95%が「公開授業・PTA総会・学園祭・強歩大会など学校行事を保護者に伝えていた。一方、学校が情報を適切に伝えていた」と回答した保護者は、79%であった。 ②「学校は、生徒が地域を理解し、地域に貢献するための機会を設けている」と回答した生徒は94%で、保護者は93%であった。 ③地域人材を活用した講演会等を実施したが、新型コロナウイルス対策のため体験的な授業での活用は難しかった。	B	①生徒の活動や学校の状況について、可能な限りライブ感をもってHPやTeamsで発信できた。次年度は、スタディサプリの保護者連絡ツールの機能も活用し一層充実した情報発信に努めていく。 ②・③北杜市における食と農を生かした住み続けられるまちづくり推進プロジェクトの一環である「食社北杜」の本校生徒の取組や4バーミル・イニシアチブの授業実践、国際交流に関する企業見学などを推進できた。次年度も、県・市・企業・保護者等と一層の連携を図り取組の充実にも努めていく。
5	「働き方改革」を踏まえて業務の見直しを図る	丁寧な対話を重ねながら生徒理解等に組織で対応し、負担感、多忙感の解消に努める。	職員評価アンケート	丁寧な対話を重ねながら生徒理解に努め、一人ひとりに対応している教員は100%であった。そのうち80%が「私は、組織での対応・共有化をはかり、業務の負担感・多忙感の解消に努めている」と回答している。	B	試験期間中の採点日の設定や会議のある日における短縮授業を実施できた。次年度は、ICTを活用した記録を活用し迅速な情報共有を組織的に進めるよう取り組み、一層の効率化に努めていく。

学校関係者評価	
実施日(令和5年3月9日)	
評価	意見・要望等
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代社会の課題解決を探ることができるような普通科のカリキュラムの多様化への一考を期待する。</li> <li>・ 授業や学習のめあてを明確にするために、より一層の学力の三要素(何ができるようになるか、そのために何を学ぶか、それをどのように学ぶか)が育まれる授業づくりの推進を期待する。</li> <li>・ ICTを活用して、授業づくりを工夫している。一方でICTに偏り過ぎず、従来の「見る聞く話す書く」ことも大切に、デジタルもアナログもバランス良く利点を活かせると良い。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動をはじめとする全ての教育活動の場面において、課題や問題点が発見できるとともに、解決のための基本の流れを理解し、実行できるような一層の体制づくりを期待する。</li> <li>・ 学園祭等リアルでの活動を通じて問題解決能力やコミュニケーション能力のより一層の醸成を期待します。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規範意識は、より多くの人の関わりによって、醸成されると思いますので、「人と関わりたい」という意欲を高めることが大切と思う。</li> <li>・ ルールやマナー違反に対して、一方的に指導するのではなく、生徒が自主的に「当然守る」意識になるような声かけや関わりが求められるのではないかと。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ より一層外部へ向けて取り組みを公表し、協力関係を構築し、より多くの人の参加のもとに、それぞれが特色を十分に発揮できるような体制づくりが大切であると思われる。</li> <li>・ 今まででは考えられないような問題が発生したり、対応にせまられることもあるかと思えます。学校で抱え込まず、外部の適切な機関等に対応をしてもらうことも検討してよいかと思う。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議の効率化や校務、行事の見直し等、小さな取り組みを重ねていくことが必要かと思えます。</li> </ul>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。